



新柳  
新髮

浮世床

三

下

號	八	第
一組	至	自
六	十	五
冊	卷	卷
		冊

14
3157
42(10) E



84  
3157  
42  
(101)  
上

柳髮新話浮世床三編下卷



浮世床の腰障子へ柳の齒とひくよりも世活く又も  
 瓦落離と引ぬて入る客の歳ころ三十斗りの  
 色赤馬く髪油かきられ大額と立派な板  
 侍木綿藍返しの金米糖とるべし如くの小  
 紋布子よ藍天の野羽織は萌芙蓉脊板れ提  
 多むと入鷓鴣の足と銀ゆく縊アくる根付とまより

三下

まきー右の方へ寄る。提する持への人鬘五郎と見  
て。さういふヤア是のちあぶらしりばくちのさし  
同のまゆめむきくさうごさうのまー。アサモウ  
此節も同役もの内一兩人引込がらるるで世話  
して。トモウ門外へおちるゆもさるんバイ。一へエイをま  
たぬ。アサモウがくちあぶらさるはし。先づ  
トカど有るバイ。一へエイニツハアニツガイノ一へ  
お二人抱でござりませぬ。一ひきく。がをさぬ。一ツあ

とめて待た。トカと。是は皆提を早う。ト大小を取てカ  
人のくちを免をまて。このわのよあさう。このあのくち  
柳川極も一向ぢらんるさるるせんが。出城極よふござ  
まきー。イヤおのち免をまて。あやう此頃ハ女郎  
およよしたまのちつて。さしモウさふさふもあぶらんバイ  
一へエイをま。イヤ全奔かたお方でござりませぬ。さ  
して又ござりませぬ。此頃極よあさるる。出二  
ござりませぬ。程。初。我ホ

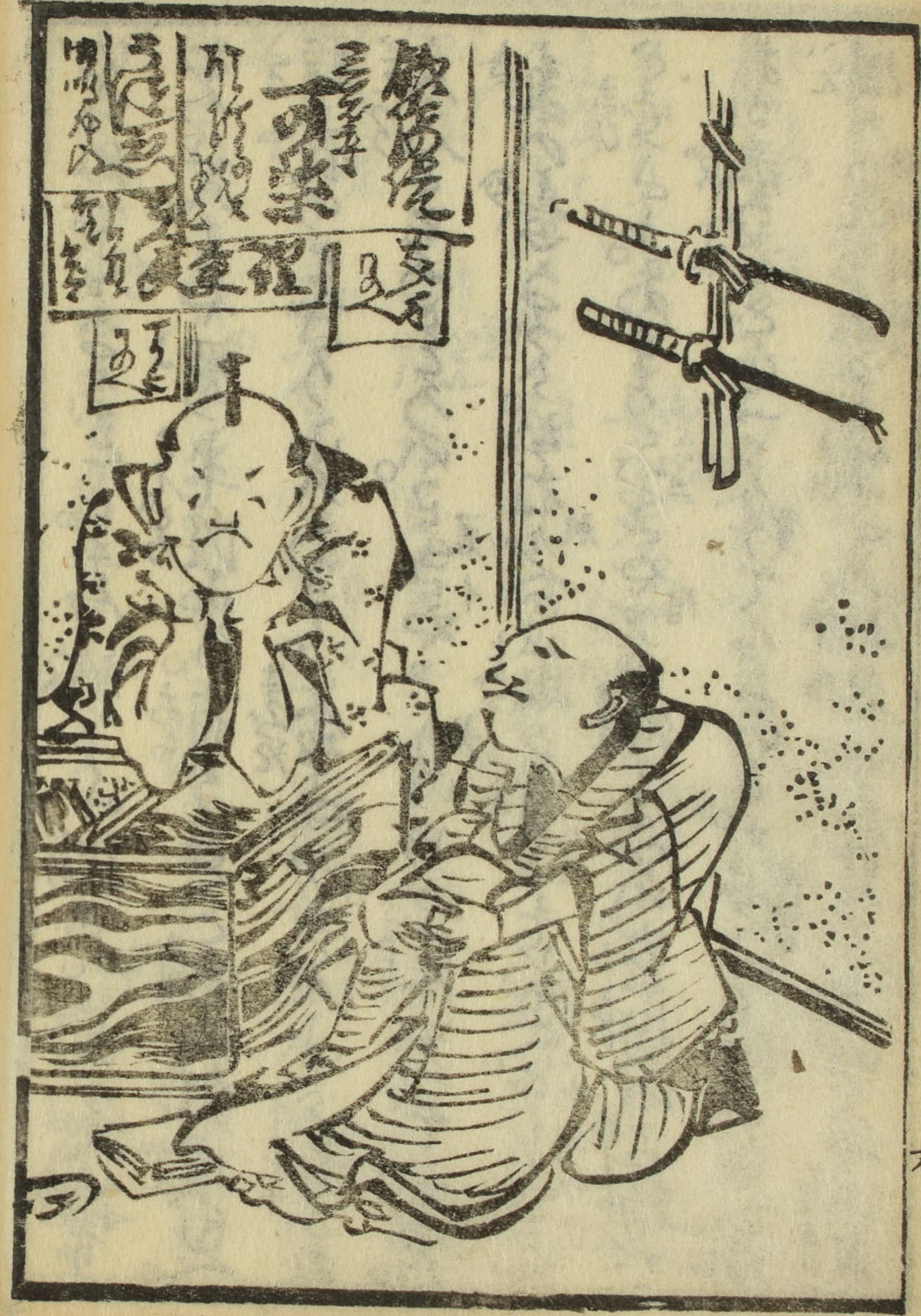
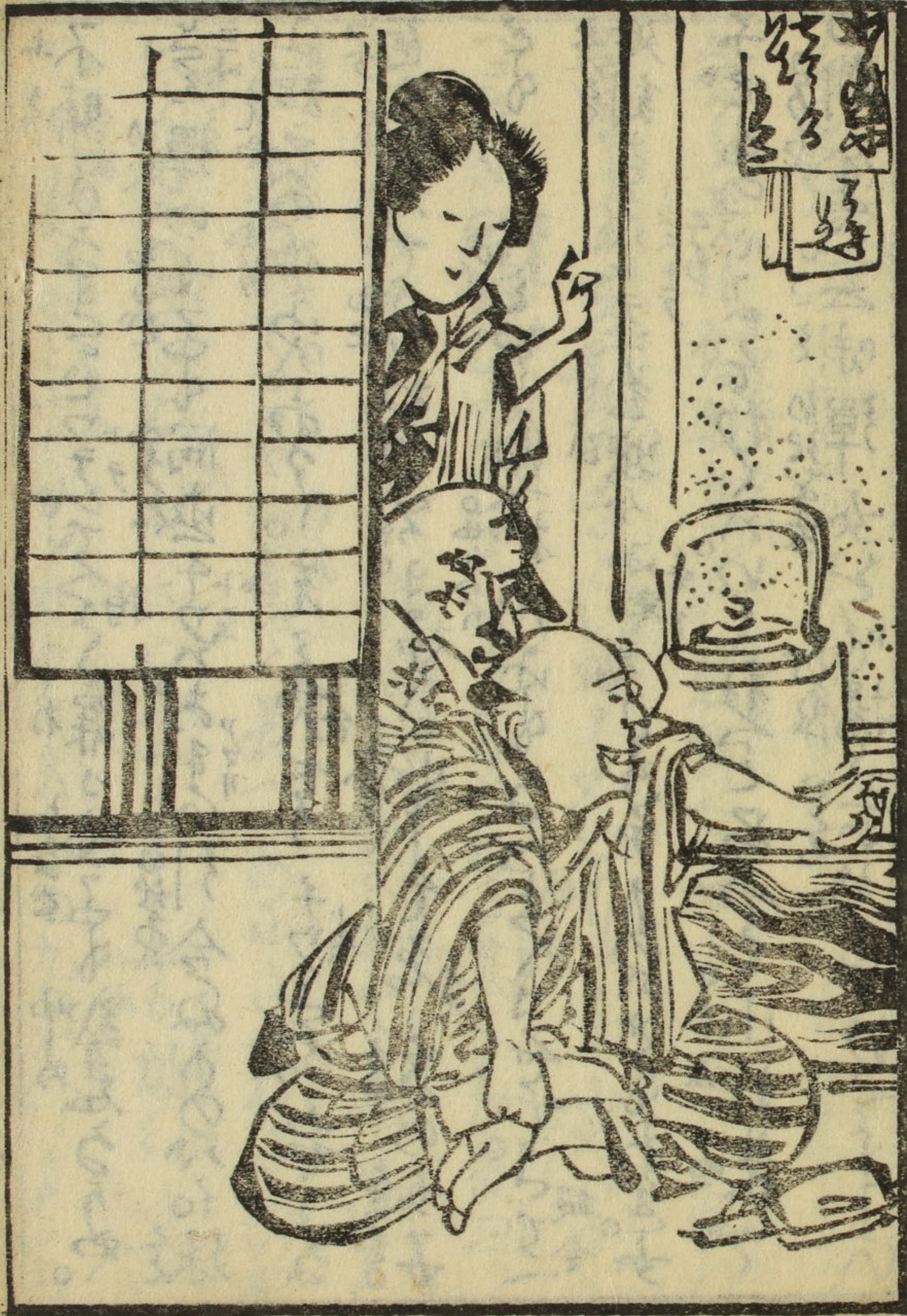






まらぬがけのちもあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 そまの取あつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 又勝よのあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 抑月とも相読あつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 縁とりぬもあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 ようく。あつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ

いらぬでもらぬもあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 ちつて。あつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 短夜のまげりぬもあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 床入ともあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 氣の毒もあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 あり。あつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ  
 隙ハるん不志とあつめいぬもねよ折入つて顔さうらうハ







へいひのそふるは是れ古より中侍さま一もらちのゆえ。  
 まづ安心入るべきにせよ。あつちのゆえ。  
 何れそふくも。あつちのゆえ。さうと彼の  
 花子もあつち。さうくは三味弾仕旦。さうとさかしたる  
 故出火さるるが元はさう中も及入へた。たう。いれ  
 左様でもさうさうぬ。むしやアがさうさうゆへ。まあアと  
 けりかさうさ。さうさあまの我が位であらう。近がまあ  
 くらまの。さうの同役中さうの娘さうでも。おれで救さう

まうさうさ。さうさあまの我が位であらう。近がまあ  
 くらまの。さうの同役中さうの娘さうでも。おれで救さう  
 けりかさうさ。さうさあまの我が位であらう。近がまあ  
 くらまの。さうの同役中さうの娘さうでも。おれで救さう  
 まうさうさ。さうさあまの我が位であらう。近がまあ  
 くらまの。さうの同役中さうの娘さうでも。おれで救さう  
 けりかさうさ。さうさあまの我が位であらう。近がまあ  
 くらまの。さうの同役中さうの娘さうでも。おれで救さう











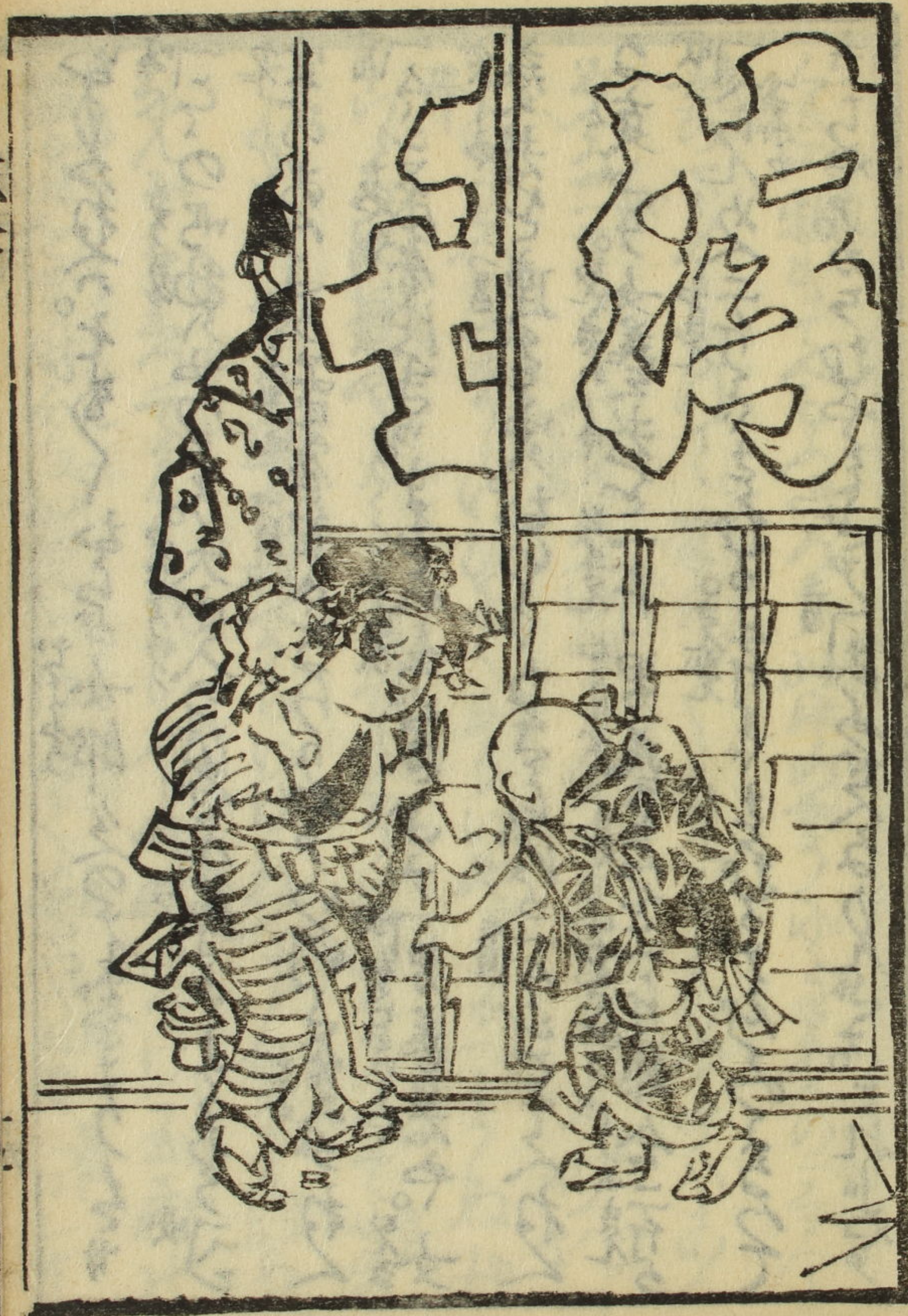












床三下

十八















